

★ 国立天文台 8 m 望遠鏡の名称について ★

8 m 望遠鏡の名称募集につき、ご協力いただきまして有難うございました。

おかげさまで 3349 通というたくさんの応募がありました。15 日付け消印をもって締め切り、19 日に選考委員会を開いて選考の結果、以下のように名称を決定いたしましたのでご報告いたします。

名称：すばる (SUBARU)

選考の理由：多数の応募の中から、簡明で日常使いやすいこと、ながく親しまれること、ひびきがよいこと、日本の望遠鏡としてのイメージが伝わること、他の科学装置の名前として知られたものは避けること、などを目安としながら候補となる名称を絞り込みました。その結果、古くから親しまれた星のやまと言葉であり、星への憧れを誘う響きの良い言葉として、すばる (SUBARU) を選定しました。すばるは、新しく生まれた星の集団であり、肉眼でもよく見える星団として昔から親しまれてきました。西欧ではプレアデスの名で知られ、やまと言葉としてのすばるは、「すまる」(集まるの意味)の転化とされています。なお応募名称中、すばるは 44 名から寄せられ、全体では 3 番目に多い名前でした。

なお選考委員は次の方々です。(敬称略)

楠田枝里子

清水洋一(毎日新聞論説委員)

芝井 広(宇宙科学研究所)

市川 隆(東京大学理学部木曾観測所)

古在由秀, 海部宣男, 池内 了, 神田 泰, 林 左絵子

(以上 国立天文台)

書 評

パーティブック「いまこそ相対性理論」

江里口良治, 藤井保憲 著

丸善, 四六版, 143 ページ, 1030 円

ホーキングの来日でピークに達した宇宙論ブームも、ようやく下火になってきたようだ。このブームは、大部分の人にとっては「ちょっと知的な話のネタ」くらいにすぎないだろうが、いくらか興味を引かれた人もいるだろうし、ひょっとしたら啓蒙書の二、三冊も読んだ人もあるかも知れない。啓蒙書では物足りないが、ちゃんとした教科書を読むのはシンDOIなどと言う贅沢な人がいたら、本書を手にとってみるのもいいだろう。

本書は、パーティ誌の連載をもとに加筆してできた本である。そのせいか、きわめて物理くさい本になっている。著者は、相対性理論そのものの説明にはあまり意を用いていない。むしろ、意図的に端折っているようでもある。ページを費やしているのは、相対性理論にいたるまでの(アインシュタインの取った)思考過程や、相対性理論の背景となっている考え方の説明についてであり、これらの点は、まさしく物理学者自身が相対性理論を理解する上で最も大切と考えている点に他ならない。また、相対性理論も物理理論である以上、実験による検

証が不可欠である。著者は、この点の説明にも力をそそいでいる。これらの特徴が、本書の物理くささかをもしだしているのだろう。

本書は、小部の冊子である。そのため、説明は必ずしも充分ではないかも知れない。また、縦書きの文章に合わせて数式も縦書きになっており、読みづらい。しかし、本書によって、他の啓蒙書では得られない、相対性理論に対する新たな理解を得ることができるであろう。

堂谷忠靖(宇宙研)

お知らせ

理論天体物理学の現状と展望 研究会

1991 年度、京都大学基礎物理学研究所短期研究計画として、以下の研究会を開催いたします。これは、過去 3 年間国立天文台において開催されてきた理論天文学懇談会シンポジウムをうけて、理論天体物理学の現状を概観すると共に、今後の方向性を考えようとするものです。理論天体物理学の研究者のみならず、この方面に興味をもたれている方々の参加を歓迎いたします。ただし、会場の都合上、参加希望者は、氏名、所属、連絡先、旅費補助の希望有無(他から旅費の補助をもらえる可能性のある方はなるべくご遠慮下さい)、懇親会(19 日)参加の予定の有無、をあらかじめ世話人の須藤の方までお知

らせ下さい。本研究会に配分予定の旅費は限られていますので、その配分等は世話人に一任させていただきます。また、できるだけ科研費等による参加のご協力をお願いいたします。講演は口頭発表のみとなっています。講演を募集するセッションで発表を希望する方は、講演のタイトル、講演内容の簡単なアブストラクト、発表を希望するセッション名を明記の上、必ず 10 月末日までに参加申し込みと共に須藤の方までお送り下さい。講演者の選定などは世話人及び座長に一任させていただきます。

研究会 理論天体物理学の現状と展望
 日時 1991 年 12 月 18 日 (水)~20 日 (金)
 場所 京都大学基礎物理学研究所 北白川
 (20 日は宇治にて開催予定)
 セッション (座長) * は、講演を募集するセッション
 * High Redshift Objects (家 正則)
 宇宙の特異速度場 (梅村雅之)
 * 重力波と数値相対論 (大原謙一)
 * 銀河の諸性質 (土佐 誠)
 惑星系の形成 (観山正見)
 * 高エネルギー天体现象 (高原文郎)
 太陽内部物理 (柴崎博資)

申込締切 1991 年 10 月末日 (必着)

連絡先

〒611 宇治市五ヶ庄
 京都大学基礎物理学研究所 須藤 靖
 TEL 0774-20-7432, FAX 0774-33-6226
 〒606 京都市左京区北白川追分町
 京都大学理学部物理第二教室 郷田直輝
 TEL 075-753-3850, FAX 075-753-3886

平成 3 年度 宇宙科学振興会研究助成募集要領

1. 研究助成対象

宇宙理学 (地上観測を除く) 及び宇宙工学 (宇宙航空工学を含む) に関する独創的・先駆的な研究活動を行う若手研究者 (昭和 26 年 4 月 2 日以降生れの者に限る。)

2. 申請方法

- (1) 申請者は、個人あるいは共同研究の場合はその代表者とする。ただし、同一の研究について他の財団の助成金等を受けていないことを条件とする。
- (2) 申請にあたっては、別紙様式に記入のうえ、提出するものとする。
- (3) 申請書提出先

〒229 神奈川県相模原市由野台 3-1-1
 宇宙科学研究所内
 財団法人 宇宙科学振興会事務局

(電話) 0427-51-3911

3. 申請書受け期間

平成 3 年 9 月 1 日から平成 3 年 10 月 31 日まで
 (事務局必着のこと)

4. 選考方法

審査会において書類選考 (必要があれば申請者と面接を行う) のうえ決定する。

5. 研究助成金の決定通知

助成対象者への決定通知は、平成 3 年 12 月上旬に行う。

6. 助成件数及び助成金額 1 件 300 万円

7. 研究の成果及び会計の報告

助成金の受領者には、研究成果及び会計についての報告を後日求める。

〔付 記〕

- (1) 研究成果について刊行する場合は、本財団の援助による旨書き添え、その別刷を 1 部提出すること。
- (2) 申請書用紙は財団事務局に請求すること。
 なお、提出された申請書は返却しない。

天文学の普及をめざして

“研究者・愛好者・教育者の集い”

A 基調講演

森本雅樹 (天文学者・国立天文台)
 杉田敦男 (愛好者・つくばエキスポセンター)
 鈴木文二 (教育者・埼玉県立越ヶ谷高等学校)

B パネルディスカッション

“宇宙を知る・感じる・伝える”

日時: 1991 年 10 月 16 日 (火)

17 時頃 (日本天文学会年会終了後)~19 時頃

場所: 水戸市民会館 中会議室 101 号室

〒310 水戸市中央 1-4-1

なお 16 時~17 時に同会場で、天文教育者の懇談会を行います。

主催: 天文教育普及研究会

共催: 日本天文学会

後援: 茨城県高等学校教育研究会地学部

つくば星の会

国立天文台一般公開

国立天文台の一般公開 (本会後援) が 11 月 16 日 (土) に行われます。台内諸施設の公開は午後 2 時から午後 4 時 30 分まで、月面観望は午後 7 時 30 分まで行われます。天候の都合で観望終了時刻を繰上げることもあります。なお雨天の際は中止となります。

当日、参観を目的の自動車は構内に乗り入れないで下さい。幼児には必ず保護者の同伴をお願いします。